

令和2年度

第3回草津市環境審議会 会議録（概要）

■日時：

令和2年8月11日（火）14時00分～17時30分

■場所：

草津市立クリーンセンター 3階 多目的室

■出席委員：

小林 圭介委員（会長）、太田 一郎委員、小笠原 好彦委員、奥田 裕介委員、久保木 毅委員、
阪口 一男委員、壽崎 かすみ委員、樋口 能士委員、堀井 喜一委員、松村 幸子委員、
森 毅委員、山川 正信委員、山元 孝子委員、横田 岳人委員

■欠席委員：

山田 淳委員（副会長）、磯貝 佳則委員、海東 まどか委員、杉江 香代子委員、中川 智委員、
山崎 賢委員

■事務局：

環境経済部	藤田部長、田中副部長、高岡副部長
環境政策課	相井課長、柴野係長、榎本主査、福永主査、関主任
くさつエコスタイルプラザ	辻館長、古田主任
資源循環推進課	黒澤係長
農林水産課	三浦副係長
歴史文化財課	岩間課長
上下水道施設課	川元課長補佐
都市計画課	中野係長
公園緑地課	奥野課長補佐
企画調整課	小川課長
健康福祉政策課	田村係長
草津川跡地整備課	寺尾副係長
危機管理課	舟木課長
学校政策推進課	上原課長
商工観光労政課	河原課長補佐

■傍聴者：

なし

■議題等：

1. 第3次草津市環境基本計画（素案）について

1. 開会 挨拶

2. 議事概要

【事務局】

<資料の1～4章について説明>

【委員】

5 ページ、環境文化のこれまでにについて、実在の遺跡・史跡を入れなければ、どこの場所の成り立ちが分からない。

一般市民、関係者以外が読みたいと思う文章になっていない。読みやすく見やすいしてもらいたい。

【委員】

草津市の現状と課題で、第2次産業従事者が減少し、91年に第3次産業の従事者を上回りましたとある。それと市民の行動がどうリンクするのか。何かあるのであれば書いていただきたい。

12 ページからの第3次計画までの成果と課題のところ、動物が出てこない。農業体験はいいが、動物をどこかで一度ぐらい登場させてあげたい。

12 ページ、環境負荷の小さいライフスタイルやワークスタイルとは何を指しているのか。

太陽光発電や、再生可能エネルギーの利用、地球温暖化の影響回避などが実際には取り組めていないのは何かしらの難しさがあるからで、それを解決するお手伝いをしないと、なかなか進まない。

15 ページ、マイクロプラスチックを減らす必要があるが、具体的に方法がよくわからない。

【委員】

前の基本方針にあった公害という言葉が消えることはよいが、公害を克服してきた歴史等の記述があってもいい。

【委員】

9 ページの草津市の現状と課題で、現状こうだから環境面にどう影響しているのか、もう少し分かるようにならないか。

新クリーンセンターの整備でごみが増える傾向にあると書いてあるが、市としてどうしたいのか、あまり分からない。

農地の減少と宅地化の進展について、農地の面積が宅地を上回った状態で維持したいのか、市として農地をどうしたいと考えているのかが分からない。

産業構造の変化について、これは草津市に住む人々の働く先の事業態を言っているのか、草津市内にある事業者の産業構造を言っているのかが「常住地」か「従業地」か明記する必要がある。

草津市の人口は2030年をピークに増加傾向とある、という文章を整理する必要がある。

【委員】

9 ページの第3章で、問題点ばかり書かれたら、こんなにやらないといけないのかと感じてしまう。こういう取り組みで、こういう成果があり、こういうところは残っているから、ここを頑張ろうというような流れで書くだけで、内容は変わらなくても読む側の印象は変わる。

【委員】

18 ページ、SDGs を六つの基本方針に落とし込んで検討、実行しようというところが非常によい。

【委員】

アンケート調査とヒアリング調査の結果で、表やグラフがもっと見やすかったらよい。

17 ページで、新型コロナウイルス感染症は今年の話なので、年代を入れたほうがいい。

【委員】

22～24 頁のような、イラスト付きの気持ちよい、分かりやすい、こういうものがもっとあれば良い。

【委員】

現状と課題で、次の施策につながるような分析をしているか、その結果が次の施策に落とし込まれているかが分かる文章にしていきたい。また、クリーンセンターが整備されたからごみが増加したというのは表現がおかしい。人口が増えたからとか、世帯数が増えたとかではないか。誤解を生むような表現になっている。

【事務局】

新クリーンセンターができ個人で持ち込みやすくなり、それが一因ということで記載している。持ち込める曜日の追加、手数料の従量制導入で、持ち込みやすい制度に変わり持ち込み量が増えた。

クリーンセンターができたことに直接的に起因しているというより、新クリーンセンターができたことで、持ち込みやすくなったということが要因の大きな一つだということは、数字上も出ている。

こちらは市民1人当たりの家庭ごみ量の増加という項目であり、人口増加ではなく、単純に1人当たりが出すごみの量の増加を示している。内訳では粗大ごみが増えている。廃棄物の審議会でもどう対応していくのか議論している途中であり、記載方法は今一度、整理をさせていただきたい。

【会長】

人口が変わらなければ、出てくるごみの量はそう変わらないのではないかと。何でも持って行って出そうという雰囲気があるのかもしれない。

【委員】

20 ページの琵琶湖の現実問題をイラスト・写真を盛り込んで分かりやすくすればどうか。

15 ページ、琵琶湖にはプラスチックごみに限らず様々なごみがある。市民に分かりやすく見せれば、今の琵琶湖の問題が身近になる。琵琶湖の美化が他に波及するハロー効果も見込まれるのではないかと。

【委員】

これだけの資料を一般市民が読むのか疑問に思う。もっとシンプルにできないか。

【会長】

市民には概要版を作って配る予定だ。この計画はあくまで市の計画として策定しており、それを市民、あるいは事業者、行政が共に市が作った計画を推進していこうと、基本的にはそういう形である。

【委員】

クリーンセンターのごみが増えているということがあったが、不法投棄が減っており、不法投棄をあまり意識しなくてもよくなった。

【委員】

市民としては読みにくいですが、基本計画なので仕方がないと思う。リーディング事業で実際に私たちが市民として何を取り組めばいいのかということ、次の段階につなげてほしい。新しい計画を進める際、市民がこういうふう具体的にやれば環境が良くなるという、いい方法を教えていただくと、市民としては取り組みやすい。

【事務局】

<引き続き、資料の5章以降について説明>

【委員】

41 ページの自然と共に生活する環境づくりに関し、今年3月に北山田漁港付近で初めてヌートリアを見た。旧草津川付近で北山田の住民がメロン等を食べられたとのこと。農林水産課に5月に仕掛けてもらった罠はかかったか。

【事務局】

確認し後ほどご報告させていただく。(罠は7つ設置し、未だかかっていることを後日報告済み。)

【委員】

三つ目の環境イノベーションについて何かネタはあるか。草津市に本社がある事業所だけが対象か。

【事務局】

中小企業はいい技術を持っておられるが、他の企業との組み合わせはできていないのではないかと考えている。また、事前調査はできておらず、商工観光労政課、商工会議所の取り組みから引っ張れないか検討している段階である。まだ構想段階だけで、正確なものはつかんでいない。また、草津市の事業所を対象としている。

【委員】

リーディング事業1で、琵琶湖や草津市の農産物、地産地消を学べるようなモデルの場はどうか。

新草津川に淀川のようなワンドを設置して水生動植物を学ぶ場にする、里山モデル（国蝶オオムラサキ復活）や、昔のエコな生活スタイルを学ぶ場等が考えられる。

若い世代を巻き込まないと難しい。30、40代は働くことで精いっぱい参加は難しい。楽しくやるようにできるかというところが課題だ。大学のように単位や学位を設けてゲーム性を持たせれば人が集まるのではないかな。

リーディング事業2について、アオバナを一家にひと鉢の単位で育てれば、自然とエコロードが作れるのではないかな。草津本陣も、歴史はとて奥深い場所だが、学ぶ場をつなげていけばエコロードになるのではないかな。

リーディング事業3について、中小企業でも体力のない会社に支援しながらしないといけない。先ほどのオオバナミズキンバイは、琵琶湖の外来水生植物協議会で草津から393トンも取られ、一般廃棄物になっているものであり、肥料や燃料にできないか。その場合、中小企業も可能ではないかな。

日本では新しい物を買って、古い物は捨てることが多いが、海外では、修復して使うことが多い。中小企業で小さいパーツを作り、直せるような仕組みにすればいいのではないかな。

43ページの「外来生物に対する知識を深め、在来生物をはじめとした生態系を大切にします」は、外来生物と在来生物が混同されている。外来生物は「琵琶湖の水生植物に効果的な駆除の方法を考えて、駆除します」「在来生物は、本来の生態性だけを大切にします」などと書けばどうか。

【委員】

環境について学び行動できる地域社会づくりについて、草津市には地域協働学校というのがある。それをどううまく活用するかが、一つポイントになると思う。また、子どもたちに一生懸命教えても、大人はそれを全然実践しない。地元の道路横の田んぼには多くの空き缶・ペットボトルが見られる。そこは小学校の帰り道であり子どもにも悪影響だ。大人もどう教育するか大事に思う。

地域協働学校を中学校にも広めたら、環境を含む様々な面で教育が進むと思う。親世代への教育・普及についても考える必要がある。

環境イノベーションの創造について、エントリー方式等の工夫があるとよい。

【委員】

自然での環境学習は、小さいときから環境に携わりながら、大人と一緒に勉強して行って欲しい。

健幸エコロードの取組が続いていくとよい。地域では、子どもを交えたり、高齢者だけ取り組んだりといったことは今でもしている。年に1回と回数は少ないが、良い取組だと思う。

【委員】

リーディング事業の図式化で関連性はよく分かるが、具体的にどうやっていくか分からない。生き物自然大学校開設は、地域協働学校をイメージしているが、そこにプラスする活動も出てくると思う。健幸エコロードでは、各地域での活動のつながりが見えてくるとよい。もっと具体的に市民がすべきことがわかると良い。

自然と共に生活する環境づくりで、達成目標の中にも捕獲数とあるが、生き物の生息情報もあるとよいと思う。

【会長】

以前、草津市の自然調査で動植物の詳細な調査を行っており、報告書と概要版を作成しているので確認していただきたい。滋賀県における絶滅危惧種も多く見つかった。

【委員】

生き物自然大学校の開設のネーミングについて、「いきもの自然学校」、もしくは「いきもの自然大学」のほうがよい。日本にとって、大学校は馴染みのある言葉ではない。

【委員】

生き物自然大学校について、五感を使った野遊びや自然の草遊びは途絶えてしまっている。子どもの発達の視点でいいことだ。自然観察会について、花壇で花を咲かせる経験も、農業体験同様のはたらきがあると思う。

リーディング事業3について、マスクやエコバックの普及に併せて関連商品やサービスが多く出ており、複雑な装置でなくともビジネスチャンスはある。草津市から始まった三角コーナー等、そういったところを狙えると良い。

環境学習ページのパンフレットやハンドブック等の作成について、具体的にずっと動けるようなものを、バラエティーをそろえ、厚くならないよう冊子を分ける等して作っていただければと思う。

学びを行動につなげる環境教育について、大人の教育が一番の問題である。教育が必要な人ほど教

育する場に来ないという問題や、子どもと関わりがない人への教育方法などを克服する必要があると思う。

低炭素型生活様式の推進の地産地消について、季節のものを食べる事を一般化することも必要である。ビニールハウスの促成栽培に使うエネルギーは大きい。

気候変動の影響への適応の推進で、ハザードマップや避難所、河川等の改修整備はしっかりお願いしたい。

環境負荷の小さい生活様式は具体的に何を指すのか分からない。

河川等流域保全活動とあるが、水害対策と絡めて取り組んでいただきたい。

市民・地域は市民農園等で農に親しみますとあるが、エコロードの花壇の取組のように、ボランティアとして取り組む思いのある市民もいるので、農に限らず園芸等も視点があると良いと思う。

環境汚染と未然防止の近隣への騒音に配慮した生活マナーの啓発につき、日本では住宅騒音の規制がない。イギリス等では自治体に家庭騒音の法律があり、取り組んで欲しいが前例も少なく難しいと思う。

【委員】

リーディング事業1について、他のリーディング事業と同様に、最終的には環境教育の人材育成にもつなげたい。担う人がいない活動は持続性がない。また、農業関連の取組は体験で終わってしまうことが多い。例えば後継者の育成や第6次産業の創出のきっかけとなるような所まで盛り込めると、事業として積極性が出てくると思う。

クリーンセンターの新設前後で分別方式は変わったか。分別を厳格化するだけでも排出抑制効果があるといわれている。草津市は早い時期から厳しい分別に取り組んでいるが、規制の緩和で排出量が増えた可能性がある。

【事務局】

分別は変わっていない。

【委員】

ごみ焼却時の効率的なエネルギー代謝の維持について、クリーンセンターの新設で発電効率も向上したと思う。不法投棄の防止やエネルギー回収の向上など、必ずしもごみの増加で環境負荷が相対的に上がるだけではない。

資源循環について、水草の再利用の数値目標があると良い。

外来種の捕獲数を達成目標としているが、捕獲数だけでは母数の増減に対応できない。目撃数に対する捕獲数を捕獲率とするなど、再検討が必要である。

健全な生活環境の保全で、公害の文言の削除につき、騒音など公害苦情はまだあると思う。指標として公害苦情件数は検討されたか。

【事務局】

公害苦情件数も指標の候補として検討したが、市に寄せられる公害苦情は大小様々であり、最近は、より生活に密着した苦情が増えている状況にある。苦情の質が関わりつつある中で、指標設定が難しいというところから、現在は指導件数を指標として考えている。定期的な立ち入りによる指導件数も指標に含んでおり、年間の立ち入り件数は、毎年同程度で推移している。

【委員】

公害苦情件数は最も端的な達成目標だが事務局の考えは伝わった。

【委員】

リーディング事業の1について、モデル地域Aは何カ所かあり、いきもの対象範囲はどこか。

【事務局】

モデル地域は1地域を想定しており、いきものは動植物が対象である。

【委員】

受講時間に応じて商店街のポイントが貯まる等、インセンティブを与える仕組みは必要に思う。

草津市の独自性を出したいのであれば、くさつ自然学校の方が良いと思う。

リーディング事業2は、名称にいろんな意味を込めているのは伝わるが、言葉を連ねたらいいわけではなく、市民目線で分かりやすいネーミングがよい。

リーディング事業3は中小企業が対象か。また、現在の事業所の状況について把握されているのか。

【事務局】

行政としては、思いはあるがネットワークがまだ十分に構築できてない中小企業を対象に支援した方がよいと考えている。最終的には自立を目指すのが、この内容の中では、他の事業所と異業種交流を図ることで新たなイノベーションが生まれるというようなことを想定している。

現在は商工部局で事業所の情報面の集約をしており、環境面でさらに踏み込めないかと考えている。

【委員】

市の取り組みとしては事業所のマッチングをすることなのか。補助金や助成金まで考えているのか。

【事務局】

細かい制度設計はしていないので、今は言及できない。

【委員】

大企業であっても一緒にできる市内の事業所を探している場合や、中小企業の視点でも大企業との関わりが重要になる場合もあると思う。助成金を出すわけでないのであれば、対象を中小に限る必要はないと思う。

33 ページに社会教育とあるが、生涯学習の方が一般的だと思う。市民に社会教育という名称は通じにくいと思う。

36 ページにモビリティ・マネジメントの説明があるが、語句の解説であり市が目指す方向を示しているわけではない。公共交通を市民がより利用しやすくし、マイカー使用を減らす方向に持っていくという考えはあるのか。

【事務局】

市内の中心部と郊外部で少し考え方は変わるが、公共交通を大事にした政策を推進していく形になっている。

【委員】

現状の公共交通でも十分マイカーを控えて生活できるという考えなのか、公共交通がもう少し便利になれば公共交通への切り替えが進むという考えなのか。そういったビジョンやプランはあるのか。

【事務局】

モーダルシフトについて、いろんな策を講ずる必要があるという考え方は持っている。別の審議会でも公共交通について専門的に検討しているが、環境政策課として最先端のところまでは、まだ把握できてない。

【委員】

私が委員をしている都市計画マスタープランの審議会でも、公共交通は重要なポイントだ。そこではシフトではなく高齢化の観点から視点から議論されている。

【委員】

市の考えと方向性は分かった。結果として低炭素型のまちに市が向かっていく方向であればよい。片仮名の言葉の説明だけ書くのではなく、行政が望む市の姿への方向性が伝わるようにするのがよい。

43 ページに市民農園や体験農園とあるが、市民なら誰でもできる農園がどこかにあるのか。

【事務局】

市民農園は行政と農協で1か所ずつ持っているという話を聞いている。

【委員】

農園があっても認知されなければ利用は進まない。家のプランターなど簡単な方法を示すことで、意欲関心を高めていける。それらを含め、リーディング事業1では自然に親しむ術を学べればと思う。

【委員】

3種類挙がっているリーディング事業に、エコミュージアムの観点はどう引き継がれていくのか。エコミュージアムの観点を生かしながら新たな展開をしていく流れが分かる形にして欲しい。

SDGsのマークが随所に出てくるが、どういった取組を17の項目に当てはめたのか。例えば環境イノベーションの中に、8の働きがいと、9の産業と技術革新の基盤といった項目は入っていない。環境について学び行動できる地域社会づくりでは、森林の里山活動の教育に関する15も必要である。

自然と共に生活する環境づくりの達成目標の外来種の捕獲数について、捕獲数がのびても、外来種

がたくさんいるまちがいいわけではなく、指標として不適切に思う。

二つ目の達成目標の水質階級Ⅰのきれいな水の達成状況について、健全な生活環境の保全の達成目標でも同様に水質について扱っている。一回検討いただければと思う。

市の環境計画では市の範囲のみを対象とするので、他地域との関わりといった歴史的な環境形成の要素が抜け落ちてしまうことを危惧している。そういったつながりが見えなくなりにくいように、意識をしてほしい。

【委員】

41 ページの外来種について、今年アライグマの被害にあった。草津市にはアライグマ、ヌートリア、ハクビシンといった外来種はどれぐらいいるのか、どういった方法で捕獲されているのか。

【事務局】

令和元年度は、アライグマ 33 頭、ハクビシン 8 頭、ヌートリア 3 頭が捕獲された。アライグマは市内全域でみられ、ヌートリアは烏丸半島や琵琶湖側の所で見掛けられる傾向がある。

捕獲は委託業者が檻等を設置し行っている。農地では農林水産課が罟の設置等を行っている。

【委員】

基本計画をどんな形にして提供し、どう発信するのか。SNS 等でも好きな人しか見ないと思うが、考えはあるか。

【事務局】

毎年、基本計画の進捗状況という形で審議会の場で確認いただいております、協議ののち公開していく形を考えている。結果については、市のホームページ等で公開しているが、より効果的な情報発信については検討していく。

【会長】

今回の 3 つのリーディング事業にはかちつとした部分がない。内々にリーディング事業に該当する意見を市に出したが、環境政策課での対応は難しいということだった。事業課ではないので、やむを得ないと考えている。

例えば生き物総合研究センターみたいな建物とか箱物を作るということは、到底、環境政策課の予算の範囲ではできない。もう一つ、エコ産業特区を創設し、その中で公害対策型とか、あるいは環境保全型の企業を誘致し、草津自身が日本版のシリコンバレーのようなものとして創成するというような考えを述べた。

以前、三重県の藤原町で、温室を作り風呂場を作って、高齢者等が集って一日過ごして帰るという場を実際に作ったが、市町合併で構想が頓挫した。このような場を作れば、高齢者等が少し暇なときに働いて稼ぐことができる。

【委員】

環境イノベーションの創造は、金銭的支援をしなければ中小企業では新規事業は進まないのでは。

【会長】

市をかばうわけではないが難しい。様々なご意見をいただいたので再度修正・加筆をお願いしたい。

【委員】

協働といっても、何らかのインセンティブが必要だ。面白そうだ、行ってみようと思うものを、市民に向けてアピールしてもらいたい。

活字が何行にもなると読みづらく、イラストやグラフとかを駆使してほしい。全世代の市民に向けて PR できるものに、文言や取り組む内容も含めて検討してもらいたい。

3. 閉会

【事務局】

今回は、今日いただいた意見を事務局で加筆修正し上げさせていただく。併せて概要版もご提示させていただく。これをもって令和 2 年度第 3 回草津市環境審議会を閉会します。本日は伝え切れなかったものがございましたら、事務局まで早めに一報いただきたい。

以上